

宇野浩二未発表書簡六十三通

増田周子

ここに紹介する宇野浩二未発表書簡六十三通（うち一通は電文）は、関西大学図書館（大阪文芸資料文庫）が所蔵するものである。

六十三通の宛名は、松下英磨一通、榑崎勤一通、斎藤茂吉三通、神屋敷民蔵五十三通、田中秀吉・神屋敷民蔵連名一通、青山虎之助四通である。差し出し年月は、昭和十四年五月から昭和二十三年六月までで、昭和二十一年が最も多く、四十三通ある。次に多いのは昭和二十年の十通である。全国書房から出していた雑誌「新文学」を編集していた神屋敷民蔵宛の書簡が大部分である。宇野浩二は、この全国書房から評論集「作家と歌人」（昭和二十一年七月一日発行）を上梓した。「新文学」は、戦争末期、時局の要請によって、「大阪文学」を中心に、「新生文学」「医理学新報」「如是」「心境」などが自主的に統合して、昭和十九年十一月に創刊された雑誌である。宇野浩二は藤沢桓夫、武田麟太郎と共に、この「新文学」の相談役になっ

ていて、新人を紹介することが任されていたようだ。敗戦直後の世相の混沌とした時期における宇野浩二の生活や全国書房との関係を知るうえにおいて、神屋敷民蔵宛書簡は貴重な資料になるであろう。

『宇野浩二全集』全十二巻は、宇野浩二の全著作を、断簡零墨に至るまで、すべてを収録された全集ではない。全集という名の選集であって、書簡や日記などは収載されなかった。

佐藤善一は百五十通ほどの宇野浩二からの便りを使って『わたしの宇野浩二』（昭和53年12月25日発行、毎日新聞社）を書いた。宇野浩二の書簡は、中村友が「宇野浩二書簡二通」（『学苑』昭和63年2月1日発行、第578号）で、「中央公論」編集者の松下英磨宛と新生社の青山虎之助宛の手紙を紹介した。その他に、「近代文学館」（平成7年1月1日、3月1日発行、第143・144号）に、江口渙宛六通、沖本常吉宛一通、笹本寅宛二通、一橋新聞部宛一通、浜本浩宛

一通、石光葆宛五通が出ています。なお、日本近代文学館の「宇野浩二文庫目録（日本近代文学館所蔵資料目録18）」に斎藤茂吉らの宇野浩二宛書簡がある。これら斎藤茂吉の宇野浩二宛書簡は、「斎藤茂吉全集第三十四〜三十六巻」（昭和50年1月13日〜51年4月20日発行、岩波書店）に六十八通収載されている。宇野浩二もおそらくそれに見合うだけの数の手紙を斎藤茂吉に出していたと思われる。ここに紹介する斎藤茂吉宛の書簡は三通だけであって、他が散逸されていることは誠に残念なことである。

ここに紹介する書簡は、発信年月日順に排列した。項目の記載は、書簡番号、発信年月日（消印）、発信地住所、宛名住所、宛名人、封書・はがきの別、使用の用紙、郵便切手額などである。消印は切手はがけられていたり、インクがかすれていたりして、判読出来ないものが多くあった。

一 昭和十四年五月三十一日（消印） 5・31/014

東京市下谷区上野桜木町十七より

麴町区丸ビル五八八区

中央公論社「中央公論」編集部

松下英磨宛（封書 便箋一枚）四銭

前略

いつか六月号とか七月号とか申したやうに思ひますが、その後、題材を変へまして、「二人の大阪商人」（仮題）といふやうなものを、これも二三年前から考へてゐたのですが、書きたいと思ひます。その下準備だけが先月一ぱいに出来ましたので、今月中頃から二十四日まで大阪へ行つていろいろ調べて来ましたが、完成するのは、早くて来月一ぱい遅くて再来月二十日頃までかかるかと思ひますので、この事ちよつとお知らせいたします。それで、完成してからお目にかけてたいと思ひます。

五月三十一日

宇野 浩二

松下英磨様

二 昭和十四年九月五日（消印） 14・9・5

東京市下谷区上野桜木町十七より

牛込区矢来町七十一 新潮社「新潮」編集部

植崎 勤宛（封書 便箋二枚）四銭

いひわけは致しません。

唯一後記に書きましたやうに、全体で四十枚を越えるかと思ひます。この二三年来書きました数篇の小説とは全く違つたものが出来るかと思つて居ります。

「新潮」と同じやうに九月号に間に合ひませんでした。「中央公論」の小説（十三枚まで書きましたが六十枚ほどの予定）を十一月号に延ばしてもらひましたので、「四日間」はその前に脱稿しなければなりませんから、今度は絶対に御迷惑かけないつもりです。あの小説は、後期（後）に書きましたやうに、同じ題材を十年程前と三四年前に使ひましたので、しぜん前の作と重複するところがありますから、最初に十七八枚書きましたのを止めて、今度の書き出しに、とさどき疲れたりその他の事で休みましたが、五六日かかりました。結局、いひわけになつてしまひました。猶、稿料は脱稿してからで結構です。

九月五日

宇野 浩二

植崎 勤様

三 昭和十五年十二月十六日（消印 不明）

東京市下谷区上野桜木町十七より

赤坂区青山南町五ノ八十一

齋藤茂吉宛（封書 便箋三枚）

まづ御高著をいただきましたお礼を申し上げます。

それから、先生のことを、いつか申し上げましたやうに、「齋藤茂吉」といふ題で、ある雑誌に連載をする約束をさせられました。

どうしても書けないものですから、「文芸」に「文学的散步」といふ題で、先生や、先生と同時代の人々の事を、散歩的に、書くことにしまして、その第一回を「文芸」の一月号から連載することになりました。先生に御迷惑をかけるかと存じますが、御苦笑（お）読（き）くださいますと幸ひに存じます。

「改造」に不定期の約束で出しました長篇小説「善き鬼・悪き鬼」は、既に三回書きましたが、みな小手調べのやうなものばかりになりましたので、来年は、これに、全力（でなくても七分力）を尽すつもりで居ります。それで、新規時直しのつもりで、新年号のために二十枚ほど書きましたが、気に入らず、三月号に載せることにいたしました。さうして、出来れば、三月、六月、九月、十二月、と四回だけ、来年は発表しまして、再来年の終り頃に完結しよう、と思つて居ります。一回五六十枚ですから、四百五六十枚の小説になる予定（予定）であります。しかし、これはまだ「取らぬ狸の皮算用」といふところかも知れません。

先達で「念珠集」を再読いたしましたら、154頁の十一行十二字目の

他国文字が他国文字。

となつて居りました。固より御存じのことかと思ひますが、ちよつと気がつきましたので、…。

それから、これも御存じかと思ひますが、「批評」といふ雑誌に、平野仁啓といふ人が「斎藤茂吉論」として、既に四回にわたつて「赤光」と「あらたま」について書いてゐます。小論ですが、真面目に書いてゐるやうに思ひます。

例のごとく取り止めのないことを書きました。ただ「善き鬼・悪き鬼」のことを書きましたのは、いつか、先生に、「五十になりましたら、…」といひましたことを実行しかかつてゐることを申し上げたかつたからです。

十二月十六日

宇野 浩一

斎藤茂吉先生

四 昭和十六年六月二十七日（消印 下谷／＼・6・27／014）

下谷区上野桜木町十七より

赤坂区青山南町五丁目八十一

斎藤茂吉宛（絵ハガキ）一水会発行一松花江（第四回一水会展

覧会）石井柏亭）二銭

「小説家としての伊藤左千夫」の続稿を二三日前からつづけてをります。一月あひだをおきましたので、前の分を初めに六号ぐらゐで組んで、まがりなりに完結させるつもりでをります。「文芸」

の小説は中途半端ですが、その前の「文芸春秋」（六月号）に「二つの道」と題して、中村彝と中原悌二郎（天死した天才彫刻家中原悌二郎）とを書きましたものは、ほんの少し自信があります。今年の後半は長篇「善き鬼・悪き鬼」（改造）不定期（レンサイ）を二回ほど書き、出来れば、北齋、司馬江漢を題材にしたものをかくつもりです。

北齋も、司馬江漢も、あの頃に油絵に関心を持ち、根気よく仕事をつづけたのに興味を持ち、おなじ（少しちがフ）意味で山東京伝（小説とさしえの秀才）も書きたいと思つて居ります。

五 昭和十九年十一月二日（消印 不詳 11・2）速達

東京市下谷区上野桜木町十七より

大阪市南区松屋町二十四 全国書房

神屋敷民藏宛（私製はがき）速達

原稿今日ちゆうに出来ませんが、明日は明治節で郵便局が休みですから、三日の朝のソクタクツでお送りいたします。

十一月二日

六 昭和二十年三月二十五日（消印 20・3・26）

東京市下谷区上野桜木町十七より

大阪市南区松屋町二十四 全国書房内

神屋敷民蔵宛（封書 アルス・新日本児童文庫原稿用紙一枚）

速達

神屋敷民蔵様

昨日、織田君（織田君は、顔を見ますと、以前に逢つたことが分
かりました。もつとも、それは織田に云はれてから分かつたのです
が、僕の友人の青木大乗君の門下生です）が見えまして、ふと大阪
のはなしが出来ました。

その時、織田君のはなしに、大阪もこんどの空襲でかなりの被害
をうけ、全国書房ともレンラクが絶えました、と心配してゐました。

実は、昨日の朝、おくれにおくれてゐました「文学の回想」の五
回（十九枚）をカキドメソクタツで送りましたが、「新文学」の三
月号がまだつきませんのは、やはりサイナンにあつたのですか。||
このこと折り返しお知らせ下さいませんか。

それから、僕は、前に申しましたやうに、仕事をもちついでする
ために、松本に行くことに八分どほりきめました、実際にゆくのは
来月になつてからになるか、と思ひます。

それで、いつか忘れました兄の「骨」を持つて大阪に行くのを、
すこし延ばしまして、松本におちついてから、にしようと思ひまし

た。これは大阪の被害の見当がつかないからです。その被害のあり
ましの模様と、全国書房の事と、大阪の宿のことを折り返しお知
らせ下さいませんか。

三月二十五日

宇野 浩二

*（注）封筒裏日付「三月十五日」

七 昭和二十年三月三十日（消印 20・3・30・東京都）

東京市下谷区上野桜木町十七より

大阪市南区松屋町二十四 全国書房

神屋敷民蔵宛（封書 便箋一枚）速達

前略

◎二十四日に書留速達で送りました原稿ついでせうか。

◎大阪も東京と殆どおなじ程度の被害をうけたことを聞きましたが、
あなたの方は御無事ですか。

◎織田君からのおたよりに三月号が出るといふことですが、まだつ
きませんが、どうなつてをりますか。

◎松本へ引つ越す手順が思ひのほか早くつきましたので、原稿料を、
松本へ行かないうちに、お送り下さいませんか。

◎「新文学」はケイゾクする自信あるのですか。

右のこと折り返しお返事下さいませんか。

三月三十日

宇野 浩二

神屋敷民蔵様

八 昭和二十年十月二日（消印 20・10・2）

東筑摩郡島立村蛇原 岩間松雄方より

東京都麹町区内幸町 大阪ビル旧館六〇四 新生社

青山辰之助宛（封書 新風土社蔵版 A号原稿用紙20×10）四

拾銭 速達

先月二十六日に「シンセンノタメゲンコウオネガヒス」シュザイ
ジユウ「二〇マイ」セイサクカイスナドヨロン「イサイフミス」
云々の電報が来ましたので、さつそく「シメキリゲンモツ」とあり
ますので、原稿の案を立て、かきはじめ、今日ぢゆうに出来ますか
ら、明日の午前のソクタツでお送りいたします。イサイフミは待つ
てゐましたがつきませんから、センサウにほんのちよつと關係のあ
ります。「シュザイジユウ」の随筆です。

◎東京からこちらへ二十個以上の荷物をヤミで輸送しましたのと、
こちらの食料のヤミなどで、ちよつと貧乏してをりますから、原稿
つきましたら、稿料ソクタツカキドメでお送り下さいませんか。

十月二日

宇野 浩二

青山虎之助様

◎東京がおちつきましたら、東京に帰るつもりです。前の家でな
く、旧市外に住みたいです。

九 昭和二十年十月二十六日（消印 不明）

長野県東筑摩郡島立村蛇原 岩間松雄方より

大阪市南区西販町二十八 全国書房

田中秀吉、神屋敷民蔵宛（封書 原稿用紙一枚）速達

河原さんがおやめになつたさうですから、お二人にあてて書きま
す。

「新文学」はどうなりますか。

新人を紹介するにも、僕が原稿をお送りするにも、今の「新文学」
はたよりなくて、二の足をふみます。

「新文学」の四月号を送つて下さい、と河原君にたのんでも、
「送ります」といつて来るだけで、送つてくれません。

全国書房は今後出版をするつもりですか。

その他、近頃の「新文学」の様子を正直にお知らせ下さいませ
んか。

十月二十六日

宇野 浩二

田中秀吉様

神屋敷民蔵様

十 昭和二十年十月三十一日 (消印) 20・10・31)

長野県東筑摩郡島立村蛇原 岩間松雄方より
東京都麹町区大阪ビル一号館 新生生^{マツ}

青山虎之助宛 (封書 原稿用紙一枚) 四拾銭 速達

今日は月末 (十月三十一日) です。切符 (往復) 待つてゐます。

「新生」の創刊号が面白いにつけて、文学雑誌 (創刊号) も「新生」に負けないものを出したいと思ひますので、なるべく早くお目にかかり、愚見を述べ貴見を伺いたいと存じます。お返事待つてゐます。

十月三十一日

宇野 浩二

青山虎之助様

十一 昭和二十年十一月十日 (消印) 不明)

長野県東筑摩郡島立村蛇原 岩間松雄方より

大阪市南区西販町二八 全国書房

神屋敷民蔵宛 (封書 原稿用紙二枚) 速達

お返事ありがたう存じます。

◎一流作家の小説の原稿料は十五円―二十円ぐらゐより下ではむづかしい上に、来年から文学関係の雑誌 (小説を出す雑誌) が十ぐ

らゐ出ますので、よほどサイソクしないと、なかなか手にはひらないと存じます。

◎新人のこと承知いたしました。これもスイセン出来るやうな作品をかく人は大抵きまつてゐますので、困つてゐます。

佐藤善一氏の「月と柿と栗」は河原君がお持ちかと存じますが、お出し下さいませるか。もし、「新文学」でお出しにならないければ、他の雑誌にスイセンしますから、お返し下さい。

◎新年号のメ切は何月何日ですか。今は作家が東京にほとんどをりません上に、方々にをりますから、メ切の日より五日ぐらゐ前に送つてくれませんか。間にあひませんから、そのつもりでおたのみになる方がよろしく、またいかなる原稿でも、何号分かのものゝたのでおかれないと、編輯のヨテイがくるひますから、今から、二月、三月号の原稿をいろいろな人にたのみ、原稿料は原稿とヒキカへにお拂ひにならないと、なかなか原稿はとれません。

◎上 (注一) のやうな雑誌と対抗して、勝つためには、よほどの「覚悟」をされないと負けると思ひます。僕も及ばずながら、創刊号以来かげながら力を入れてゐるのですから、これからは一そうお力ぞへをしたいと思います。僕の愚見をなるべく御採用下さいませんか。

この事を田中さんにもよくおつたへ下さい。そのために、大阪に

行つて田中さんなどにおあひして、愚見を述べたいのですが、今は汽車の切符が買へませんし、宿がありませんし、食料がありませんから、思ふやうに行かないのを残念に思つてゐます。

◎海外の文学の紹介も結構ですが、海外の文学を（小説でも、評論でも、何でも）一篇ぐらゐ出すより、日本の古典（はじめは明治大正文学の作家の研究のやうなものを、適任の人にたのんで、毎号一篇づつお出しになつた方がよいと存じます。||これは河原さんも同じ考へをお持ちのやうですから、河原さんにも御相談下さい。

◎僕の「回想の文学」はだいたい何枚ぐらゐまで出せる余裕（枚数）がありますか、お知らせ下さい。

「回想の文学」内容を少しづつ変へて行つて、ここで、僕が海外文学と明治大文学とのことを、研究的でなく随筆風に書きたいと思つてゐます。それで、枚数を今までより少し多くほしいのです。

◎全国書房はむかしどほり出版もされるのですか。

◎「新文学」は僕のほかに

岩手県山田町 佐藤善一

松本市渚町三三 北沢喜代治

両氏に毎号お送り下さい。

◎僕はこの月の十八九日頃に左にひつこします。

松本市今町四三三

十一月十日

宇野 浩二

神屋敷民蔵様

◎田中さんにくれぐれもよろしく

◎河原さんにも――

お返事ソクタツ下さいませんか。

チリ紙

茶 } に実にこまつてをりますが、

いくら高くて結構ですから、お買ひ下さいまして、お送り下さいませんか。

（注一） 上欄に次のようにある。

「文芸春秋」「新潮」「文芸」などが再刊され、「人間」「新生」

「展望」「芸文」その他五六種の小説や評論や随筆を出す雑誌が創刊されます。

十二 昭和二十年十一月十五日（消印20・11・15）

長野県筑摩郡島立村蛇原 岩間松雄方より

大阪市南区西販町二八 全国書房

神屋敷民蔵宛（封書 原稿用紙一枚）速達

昨日は、松本中の銭湯の休みのため、二週間ぶりで風呂にはひるため、浅間温泉に行つてをりました。失礼しました。

お茶（貴重品）ありがたう存じます。

さて、「新文学」の再興のこと、七日のあなたのお手紙（ソクタク）でやつと知りましたので、新年号のいくつかの雑誌の原稿の約束をしてしまひましたので、僕の原稿は今月一ぱいに出来ませんか。十二月号に、僕が七月十一日に河原君あてにカキドメソクタクつでお送りしました「国木田独歩」（「回想の文学」のうち）が出ないやうですが、あれを新年号に出して下さい。

◎新人の原稿で、スキセンの出来る小説が一つ手もとにあります、それを送つて出して下さいませ。

◎十日に出しました手紙のお返事をおり返し下さいませせんか。

十一月十五日

宇野 浩二

神屋敷民蔵様

そのうち、切符が手にはひりましたら、「新文学」の今後のことについて、意見を申し上げに、御地に行きたいと思ひます。

○田中さんによろしく。

二十三日から 左記にこします。

松本市今町四三三

○コブ ノリ チャ（みないくら多くても結構で）これもいただきましたが、いくらでもほしいのです。一ヶ月に四半打の配給なので。

◎代金おはらひいたしますから、とろろこぶ買つていただけませんか。せうか。なるべく多く。

十三 昭和二十年十一月二十七日（消印 不明）

松本市今町四三三より

大阪市南区西賑町二十八 全国書房

神屋敷民蔵宛（封書 便箋二枚）速達

拝復

十八日から二十一日まで留守にしました。上京したからです。その上京中に、久米正雄君（鎌倉文庫）社長兼新雑誌「人間」の顧問にあひましたとき、文芸家協会で、小説の稿料を最低三十円、大家は最低五十円ときめたので、「人間」が、紙代のつぎに、稿料に金がかかりすぎるとコボしてゐました。これは、文芸家協会がそんなことを極めない前からの事ですから、この間お知らせしました一流作家の小説の稿料は、たしかまちがひで、五十円が最低です。

◎それから、正宗さんは長野県軽井沢で郵便がとどくでせう。伊藤君は日本にゐないかと思ひます。

◎創刊の文芸雑誌が十ぐらゐ出来ましたので、作家が忙し過ぎて、「注文に応じ切れない有様で、「文芸春秋」の編輯長が、「原稿のあつまりがわるくて困つてゐる、シメキリ前に間に合ふのは、特輯号のためにたのんだ七八人の作家のなかで、三人ぐらゐだから……」とコボしてゐました。

◎そのため、あらゆる文芸雑誌の編輯長は、みな、他の雑誌にまけないために、自分の雑誌にナニカ特長をこしらへようと思案してゐますから、「新文学」はなかなか油断できません。

◎そのため、大阪に行つて、御相談にのりたいのですが、結局、切符の入手コンナンと、方々の雑誌にたのまれてゐます原稿（おもに小説）のために、今年ちゆう、自分で自分をカンツメにしなればなりませんか、と閉口してゐます。

◎原稿とりのコンナンは、作者がほとんど東京にゐない上に、日本の方々にゐるため、といふ事もあります。それから作者がなかなか承諾しないので、ある雑誌は稿料のほかにメリケン粉などを添えてゐるなどといふ話まであるくらゐです。

◎結局、二月号のシメキリまでに書けないかと思ひますが、「新文学」のために、短いものなら、と思ひます。

こちらへ帰りまして（二十一日の夜）引つこしのため、執筆のため、煩多地のため、これで失礼いたします。

十一月二十四日

宇野 浩二

神屋敷民蔵様

◎大阪には殆ど町らしい町がないといふ話ですが、宿や食料は大丈夫ですか、大阪―松本の切符かへますか。

◎こんど東京に行つて、そのために困りましたので、念のためにおうかがひいたします。

原稿紙を、高くても、買つていただきたいのですが……

今、お茶つきました。代金おはらひしますから、他のものもお願いいたします。

◎作家の住所は東京新聞の頼尊清隆君にきかれたら、大抵わかりませう。

十四 昭和二十年十一月二十九日（消印不明）

松本市今町四三三より

大阪市南区西販町二八 全国書房

神屋敷民蔵宛（封書 便箋一枚）速達

拝復

ソクタクおハガキ拝見

◎「国木田独歩」は河原君がたしかに持つてをられます。

◎新年号に、明日、北沢喜代治の小説お送りいたします。新人ですが、もう二十年以上かいてゐる人で、この人に二三度かきなほしてもらつたもので、その小説だけに三ヶ月かかつたものです。よい作品ですから、のせて下さい。新人の稿料はいくらですか。

◎「新文学」をもつともよい雑誌にするために、そのために、藤沢君や織田君や、田中さんやあなたと会議するために、そのついでに、こちらこちらに、**（食料）**をかひにゆくために、来月中頃うかがひます。11日がきまり次第お知らせします。

◎関西線は名古屋ノリカへで、大阪のどこにつきまますか。

◎大阪は東京以上に家がないさうですが、その駅において、どこへ行つたらよいのですか。

◎二月号の原稿何とかしてかきます。

十一月二十九日

宇野 浩一

神屋敷民蔵様

御返事下さい。

十五 昭和二十年十二月十五日（消印 不明）

松本市今町四三三より

大阪市南区西販町二十八 全国書房

神屋敷民蔵宛（封書 便箋二枚）速達

◎北沢氏の原稿をよろしく存じます。

◎明日（十五日）午前六時の汽車で（東京のある出版社から切符を送つてくれましたので、それで）上京いたします。

◎半分できてゐる小説を、十七日のメ切に間に合はすために、その半分を東京で書いてわたすためです。

◎「新文学」のこの次ぎのメ切は何年何月何日ですか。○お知らせ下さい。

◎来年の一月の中頃に御地に行きたいと存じます。

◎十九日にこちらに帰つていますから、その頃までに出てゐる筈の北沢氏の原稿（小説）お送りいたします。二十一日頃。

◎おあつめ下さいました食料品、代金お拂ひいたしますから、そのネダンがきをそへて、お送り下さいませんか、仕事をするのに、カンジンの自分のための食料に困り切つてをりますので、なるべく早くお願いいたします。

十二月十四日

宇野 浩一

神屋敷民蔵様

◎国木田独歩おねがひします。

骨折つて書いたものだから

十六 昭和二十一年一月二日 (消印 松本/料金収納/長野県)

松本市今町四三三より

大阪市南区西販町二十八 全国書房

神屋敷民蔵宛 (封書 便箋一枚)

◎「新文学」はどうなつてゐますか。

◎僕は、もし「新文学」が無事に出るのでしたら、「大和」といふ
題で、大和を(三年ほど前に)歩いてまはりました時のことを、
あたらしい歴史をかくつもりで、新しい案内記をかくつもりで、
随筆風に書いて、レンサイしたいと存じます。
が、今までのやうな原稿料では困ります。今は、どの雑誌でも、
随筆でも二十円以上、小説は四十円以上です。

◎いつか、おねがひしました、食料品(代金をおはらひすることで
おねがひしました)をお送り下さる、といふおたよりがありました
たが、待つてをります。僕は、サケ、タバコをのみませるので、
もし砂糖がありましたら、これも(いくら高くてもいいですから)
お世話下さいませんか。それからチリガミ(紙)

一月二日

宇野 浩二

神屋敷民蔵様

十七 昭和二十一年一月十四日 (消印 不明)

松本市今町四三三より

大阪市南区西販町二十八 全国書房

神屋敷民蔵宛 (封書 便箋一枚) 速達

前略

◎「新文学」はどうなつてゐるのです。

◎僕の「国木田独歩」の出る号もまだ出ないのですか。室生君の本
の広告も見ましたが、出たのですか。

◎僕の手紙に返事を下さらないので、ハリアヒがありません。

◎またお願ひしました、茶、その他も一向おくつて下さいませんが、
東京の出版社などは、たのんだものはすぐ送つてくれますが、そ
れもどうなりましたか。

「新文学」は結局廃刊になるのですか。

お返事下さいませんか。

一月十四日夜

宇野 浩二

神屋敷民蔵様

◎僕はサケもタバコのみませないので、唯アマイもので、
疲労を養つてをりますが、もし砂糖が買へましたら、い
くら高くても結構ですから、お買ひ下さいませんか。代

金お送りしますから。

神屋敷民藏様

十八 昭和二十一年一月三十日（消印 不明）

松本市今町四三三より

十九 昭和二十一年一月三十日（消印 松本／料金取納／長野県）

松本市今町四三三より

大阪市南区西賑町二十八 全国書房

東京都内幸町大阪ビル第四号館604号 新生社

神屋敷民藏宛（封書 便箋一枚）

青山虎之助宛（封書 便箋二枚） 速達

〇どうしてをられますか。

こんどは本当にいろいろ。

(1) 〇「新文学」に、「回想の文学」をもつと実のあるものにしてレ
ンサイしたいと思ひます。ただ、これまでの稿料では、ハッキリ
いひますと、いやです。いまは、どんな雑誌でも、小説は最低、
三十円以上、七八十円で、評論隨筆は、僕のかいてゐますのは、
三十円以上です。

二十八日の夜の十時四十分ごろ帰ります。心配したとほり、うちの
者は、（僕の東京した二十五日の午後、人事不省におちいり、その
時、偶然、東京から俗用でたづねて来ました義妹のために、アプナ
イとこゝろを助かりましたが）その義妹に付きそはれて、寝てゐまし
た。

(2) お願ひしましたもの、代金をかならずお拂ひいたしますから、お
願ひいたしたいのです。

〇しかし、医者のおすすめもありますので、義妹にうちの者がある程
度までよくなるまで、ゐてもらふつもりですから、「青春期」は
今日（三十日）の午前九時ごろからはじめてをります。（御安心

砂糖 茶 コブ。

下さい、買ひ出しは、テツダヒ人が行きますから、心ゆくばかり

殊にサトウはいくら高くても結構です。

机の前に坐つてをられます。

(3) 新人の原稿で、北川喜代治さんの百三十枚といふよい小説があり

〇しかし、かういふ有様ですから、来月の四日には東京できません。

ますが、それを二度にわけてお出しなさいませうか。

もつとも、うちに病人がなくても、いい気になつて、来月の四日

〇お返事下さいませうか。

に上京すれば、「女性」の『東西の文学に現はれたる恋愛』も書

一月三十日

宇野 浩二

けません。その上、上京は執筆の五倍ぐらゐる疲れます。

○それで、『青春期』は二月一ぱい(おそくとも、三月一ぱい)に五十枚ぐらゐる書き上げ、つづいて、『東西の文学に現れたる恋愛』(十五枚)にかかりますから、おそれ入りますが、遠方(八時間の汽車)おそれ入りますが、原稿うけとりの方をおよこし下さいませんか。その代り、こんどは、お見えになりましたら、その場で、原稿おわたしいたします。四日午前中。そのかはりに、原稿料から、御遠慮なく、お引き下さいまして、サトウ一貫と、アメ(アタミ産、十枚)などをおねがひいたします。(その他お気づきのもの)

○アメは、僕の前稿かく時だけでなく、うちの者が僕以上の大好物ですから、二十枚お願ひいたします。うちの者の病気は、長い間のスキミン不足(不眠でなく)と、過労のための、カルイ神経衰弱と、つよくない心臓病です。

一月三十日

宇野 浩二

青山虎之助様

酒井さんに、タビ(コイ草色の十文)銀座のヤミ屋に売つてゐます)を五足、一足四十三円

かなりわるいものらしく、養生は、おかゆぐらい

二十 昭和二十一年二月二日(消印 不明)

長野県筑摩郡島立村蛇原 岩間松雄方より

大阪市南区西販町二八 全国書房

神屋敷民蔵宛(封書 便箋一枚)

○「新文学」の新年号まだつきませんが――

○いつか申し上げましたことのお返事だけ下さいませんか。

○「新文学」の新年号、二月号などの顔ぶれはダレダレですか。

○もう少し熱心におやりになつたらどうですか、

○金尾文淵堂の京都の所、御存じでしたら、お知らせ下さいませんか。

二月二日

宇野 浩二

神屋敷民蔵様

○サトウ、イクラ高くてもいいのですが、一貫ぐらゐおせ

わ下さいませんか。代金、ありましたら、お知らせ下さい

い。

○タンサン、ないでせうか。

* (注) 封筒裏日付「十一月十五日」

二十一 昭和二十一年二月四日(消印 不明)

松本市今町四三三より

大阪市南区西販町二十八 全国書房

神屋敷民蔵宛（封書 便箋一枚）速達

昨夜「フミミタ」カイソウノブンガクツツキニツキ一三ヒマアナ
タノム」キタザワシゲンコウイタタギタシ」コズミーツオクツタ」
といふ電報いただきました。（こんどは電報は至急報（ウナ）で
お打ち下さいませんか。）

◎さて、「回想の文学」は、この前は、国木田独歩について書きま
したから、こんどは田山花袋（主として、花袋の傑作「田舎教師」
について）をかきたいと思ひます。

それとも、広津の「蔵の中」（僕の処女作の題名です）物語のむ
かうをはつて、処女作をかいた時分の思ひ出をかいてみようか、
とも思つてゐます。

◎いづれにしても、十三日にはお送りいたします。但し、ソクタクツ
カキドメでもこの頃の郵便はおくれがちですから、そのおつもり
で、

◎今日（四日）の朝日新聞に広告の出てゐました「北斎とドガ」出
ましたら、代金はらひますから、お送り下さいませんか、室生君
の本は出たのですか。

二月四日

神屋敷民蔵様

宇野 浩一

二十二 昭和二十一年二月七日（消印 不明）

松本市今町四三三より

大阪市南区西販町二八 全国書房

神屋敷民蔵宛（封書 便箋二枚）速達

拝復

紙のノリありがたう存じます。

砂糖は、いくら高くても結構ですから、お願ひいたします（お手
紙の中に「数日中に上京」とありますが、上京は東京にいらつし
やるのですか、東京にいらつしやる途中におよになるのですか。
大体何日頃こちらになりますか、速達でお知らせ下さい
ませんか。

◎砂糖は、サケもタバコものまない僕の身心保養の必需品です。

◎お茶もほしいのです。これもサトウのつぎの必需品です。しかし、
やはり、砂糖お願ひいたします。お茶は数ヶ月のちで結構です。

今ほどの雑誌も早く出すのが競争ですから、「新文学」は三四月か、
四五月に合併号を出して、毎月一その月のはじめに必ずお出しにな
るのが必要と信じます。

◎お申しこしの北沢喜代治さんの小説は、大へんよいもので、題は
「出立」第一章と第二章にわかれてゐて、第一章が六十枚、第

二章が七十六枚ですから、御都合で、二回分載でもよいと思ひますが、北沢さんの全作品の中でいいものですし、新作家のものとして、かなりすぐれたものですから、おもひ切つて、百三十六枚一度にお出しになることをおすすめいたします。

○ 僕 の 原 稿 十 三 日 に ソ ク タ ツ カ キ ド メ で お 送 り い た し ま す 。

二 月 七 日

宇 野 浩 二

神屋敷民蔵様

○ なにか甘いものがありましたら、これもいくら高くても結構、お買ひ下さいませんか。

○ 何月何日ごろいらつしやいますか。

おへんじソクタツ下さい。

二 十 三 昭 和 二 十 一 年 二 月 十 四 日 (消 印 不 明)

松本市今町四三三より

大阪市南区西販町二十八 全国書房

神屋敷民蔵宛 (封書 便箋二枚) 速達

前略

○ 「新文学」まだ出ないのですか。

心ほそくて原稿かく気になりませんが、

御様子おりかへしお知らせ下さい。

○ 「作家と歌人」

自然主義の道

— 自然主義諸作家概観 — 117

一、自然主義の前派

二、島崎藤村

三、田山花袋

四、国木田独步

五、岩野泡鳴

六、正宗白鳥

七、真山青果

八、徳田秋声

島崎藤村

126

高濱虚子

86

歌人の散文

100

かういふ本 (僕の本) を全国書房でお出しになりますか。みんなで四百二十五枚です。

田中様 僕は是非出版したいと思ひます 嘗 可 否

他の本屋に話があるのですが、「新文学」といふ雑誌を持つてゐる「全国書房の方が」とおもつて、お聞きしたのですが、おりかへしお返事下さいませんか。もしお出しになりますなら、印税と初版の部数お知らせ下さい。

◎サトウー待つてをります。小包で送る方法ありませんか。何かに、くるんで分らないようにして。

二月十四日

宇野 浩一

神屋敷民蔵様

○メ切何日ですか

二十四 昭和二十一年二月二十二日(消印) □・2・22

松本市今町四三三より

大阪市南区西販町二十八 全国書房

神屋敷民蔵宛(官製はがき) 五銭 速達

明日

二十五枚の小説カキドメソクタツでお送りいたします。

いつかコブとお茶を送つたといふ電報ありましたがどうなりましか。

二月二十二日 松本市今町四三三

宇野 浩一

二十五 昭和二十一年三月五日(消印) 不明

松本市今町四三三より

大阪市南区西販町二十八 全国書房

神屋敷民蔵宛(封書 陸軍用箋一枚)

前略

初七日を昨日すまし、明後日遺骨を東京の方にをさめるために、上京しなければならなくなりましたので、小説はどうしても出来ませんから、やはり「回想の文学」の外篇といふやうなもので、

○田山花袋の「田舎教師」

をお送りいたします。

◎お茶とコブお願ひいたします。

十一日に帰るヨテイです。

三月五日

宇野 浩一

神屋敷民蔵様

◎一心寺のこと至急お知らせ下さいませんか。

二十六 昭和二十一年三月二十三日(消印) 大阪府大阪 21・11・

13)

松本市今町四三三より

大阪市南区西販町二十八 全国書房

神屋敷民蔵宛(封書 原稿用紙一枚) 速達

やつと五日がかりで出来ました。

「新文学」一月号が出ただけで、まだつきませんが、やはりこん

とは二三月合併号として、そのつきから四月号、五月号とされては
いかがですか。

お茶代その他をお引き下さいましたのこりの稿料を新田でお送り
下さいませんか。

それには郵便為替でお願いいたします。

新人の三十枚の小説があります。

よろしかつたら、お送りいたします。

「作家の歌人」の原稿つきましたでせう、つきましたら、お返事
下さいませんか。

それから、あれはだいたい定価いくらぐらゐで、何部ぐらゐお
刷りになりますか。印税いくらですか。

○一心寺の事務所わかりましたか

三月二十三日

宇野 浩二

神屋敷民蔵様

* (注) 封筒裏日付「十月十二日」

二十七 昭和二十一年三月三十日 (消印 不明)

松本市今町四三三より

大阪市南区西販町二十八 全国書房

神屋敷民蔵宛 (封書 陸軍用箋一枚) 速達
お返事ありがたう存じます。

○一心寺は焼け跡に仮り健て物をたててゐるさうですが、そこで供
養をしてくれませうか、遺骨を持つて行きましても。(おついで
の折りもう一度、御面倒ですが、おしらべ下さいませんか。

○しかし、今日の新聞によりますと、大阪は発疹チブスの大流行の
ために映画館も劇場も閉場といふことですが、これでは当分(一
と月ぐらゐ)行きたくても、大阪には行けないことになりまして、
二ノ足をふんでゐます。

○さて、「新文学」のこの次ぎのメ切り何月何日ですか。東京の雑
誌(たとへば「人間」「展望」「新生」「文芸春秋」その他)は、
ソクタクツとデンボウでメ切の十日ぐらゐ前から二日おきぐらゐに
サイソクして来ます。それで、「新文学」も、やはり、電報、速
達で、サイソクする方法をおとり下さい。

○それから、小説は、室生君があまり多すぎますから、例えば、里
見、久保田、井伏、武田、高見、中山義秀、中野重治、武者小路
実篤、その他、いろいろな人に、雑誌を送つておたのみになるこ
とを希望いたします。

○それから、「作家と歌人」のこと承知いたしました。

○それから、新田になりまして、かなり困窮してをりますので、

「回想の文学」(この間お送りしました)の稿料を、新円で取れますよう、ソクタツカキドメでお送り下さいませんか。ついでに、北沢喜代治さん(松本町^{トウ}渚町三三三)にも稿料送つて上げて下さいませんか。

◎新人の原稿(新人といつてももう二十年以上かいてゐる人)、二つ手もとにあります。よく(一度よみましたが、もう一度よく)よんで、よかつたら、お送りいたします。

三月三十日

宇野 浩二

神屋敷民蔵様

二十八 昭和二十一年四月六日(消印 不明)

松本市今町四三三より

大阪市南区西販町二八 全国書房

神屋敷民蔵宛(封書 原稿用紙20×10 二枚) 速達

ありあはせの紙で失礼いたします。

「新文学」はその後どうなりましたか。

三四月合併号もどうなりましたか。

(一)◎「新文学」のその後の様子お知らせ下さい。僕の原稿のこんどのシメキリは

何月何日ですか。

(二)◎一心寺は前の所で事務をとりますか。

(三)◎いつかの北齋とドガの本できましたら、

お送り下さいませんか。

(四)◎お茶、たかくても結構ですから、何とかありませんか。

◎サトウはどうですか。

四月六日

宇野 浩二

神屋敷民蔵様

右 おりかへし ソクタツでお返事下さいませんか。

二十九 昭和二十一年四月十五日(消印 不明)

松本市今町四三三より

大阪市南区西販町二十八 全国書房

神屋敷民蔵宛(封書 鎌倉文庫原稿用紙一枚) 速達

「新文学」の合併号は結構です。その代り、この次ぎからは、順調にお出しになることを希望いたします。

◎「回想の文学」今かきつづけてをります。

◎佐藤善一さんの「月と栗と柿」は、やはりいいものと思ひます。

一度「文芸」にやつたのですが、「文芸」に僕が約束の原稿をかきませんでしたので、「文芸」から返して来ましたので、「新文学」にお出し下さいませんか。

- ◎新作家のもの、それと一しよに一つか二つお送りいたします。
 ○代金お拂ひいたしますから、コブとお茶お願ひいたします。
 ◎川崎さんと北沢さんに原稿送つて上げて下さいませんか。

四月十五日

宇野 浩二

神屋敷民蔵様

- ◎「作家と歌人」のうち、「島崎藤村」と「高浜虚子」とを抜いて、「志賀直哉」「里見淳」「島崎藤村」 ↓ 別の藤村論2つとにかへたいと思ひます。それでこの間お送りしました「島崎藤村」と「高浜虚子」とお返しお送り下さい。
 ◎「北齋とドガ」おねがひいたします。

三十 昭和二十一年四月十九日(消印 不明)

松本市今町四三三より

大阪市南区西販町二十八 全国書房

神屋敷民蔵宛(封書 用箋一枚) 速達

東京から帰つて来ましてから疲労のため、二三日半病人のテイでをりましたので、約束の原稿がしだいにおくれまして、「回想の文学」もおくれてをります。

もう二三日しましたら、かならず書いてお送りいたします。

◎それから、いつかの評論集の「作家と歌人」より、どうしても「二宮尊徳」の方がだんちがい売れる気がいたしますし、全国書房からはじめて出す本としまして、

◎二宮尊徳(長篇小説Ⅱ二百六十枚)の方が、僕の自信のある近作ですから、この方を出したいと思ひます。

田中さんと出版の係りの方にお話し下さいませんか、但し、最後の三十枚の書きだしをするのに十日ぐらひかかります。

四月十九日

宇野 浩二

神屋敷民蔵様

◎北沢さんに稿料お送り下さいませんか「世界文学」の方の稿料が北沢さんの方についたさうですから。

◎新人の作、そのうちお送りいたします。

三十一 昭和二十一年四月二十日(消印 長野県/松本/21・4・

20)

松本市今町四三三より

大阪市南区西販町二十八 全国書房

神屋敷民蔵宛(封書 用箋一枚) 速達

◎「新文学」はまだ出ませんか。大阪で、今ではもつともふるい文芸雑誌ですから、どうぞ、ほかの雑誌にまけないで、早くお出し

下さいませんか。

◎川崎長太郎氏（小田原市幸）になるべく早く稿料お送り下さいませんか。北沢喜代治氏にも。

◎川崎君の小説の出でゐる（ずつと前の）「新文学」なんとかして、手にいらないうでせうか。あの小説の出でゐる分だけでもいいのです。誰か持つてゐる人がありましたら、お借り下さいませんか。

◎「北齋とドガ」出ましたら、お送り下さいませんか。

◎それから、「文学の回想」ギリギリ、いつまで（何月何日）までですか。

◎お茶とコブ（少し高くても結構ですから）。

代金はむろんお拂ひいたしますから、なるべく早くお送り下さいませんか。

◎なるべく早く都合をつけて、（方々の約束の原稿を片づけて）大阪に行きたいと思つてをります。

◎室生君の「山吹」まだ出ませんか。

◎矢野君の「近英文芸批評史」もまだですか。

四月二十日

宇野 浩二

神屋敷民蔵様

収納)

松本市今町四三三より

大阪市南区西販町二十八 全国書房

神屋敷民蔵宛（封書 便箋 裏オモテ）速達

淡路島からのソクタツ（ハガキ）拜見いたしました。

◎「作家と歌人」は全部組みあがつてしまつて、校正も進んでゐる由々それでは仕方ありませんから、原稿とりかへはテツカイいたします。

その代り、(-)校正はかならずお見せ下さい。

(二)装幀はどんな風になりますか。（センモンの画家にたのみますか。）

(三)実は鎌倉文庫の川端君から、「島崎藤村」と「高浜虚子」を（二篇を一冊にして）出させてほしい、その代り、「失礼ですが、印税の内金として、五千円は新円でお送りします」と云つて来たのです。

(四)それで、「作家と歌人」の印税の内金として一千円だけお送り下さいませんか。（その一千円の中から、「甘イモノ」と「オ茶」の代をお引き下さいませんか。

(五)昆布はお手にはいりませんか。

三十二 昭和二十一年四月二十九日（消印 長野県／松本／料金

◎僕の内金ですが、妻の長わづらひのために、方々の約束の原稿が、

しだいに慣れてをりますので、それに忙殺されてをりますが、

「回想の文学」は面目一新して、かかりたいと思ふのですが、こんどのシメキリの月日をおりかへしお知らせ下さいませんか。

◎「新文学」まだ出ませんか。どうなつてをりますか。出ましたら、北沢さんに、(北沢さんの作の出てる雑誌)三冊送つて上げて下さいませんか。

◎新人の作品別便でお送りいたします。新人といつても、佐藤さんと及川甚喜さんのだけで、あとの二つはもう一度よみなほしてからお送りいたします。

四月二十九日

宇野 浩二

神屋敷民蔵様

失礼ですがウラをごらん下さい

及川甚喜氏は「文芸首都」のもつとも古い同人で、その幹部であり、農民文学者会の幹事であり「少国民の友」の編輯主刊（下）であります上に、既に十数年、小説を勉強してゐる人で、お送りいたしました作は56枚ですが、それだけ(それ以上)の価値があると信じます。

大阪ゆきはみな原稿が出来てからにいたします

* (注) 封書裏日付「七月十七日」

三十三 昭和二十一年五月一日(消印 不明)

松本市今町四三三より

大阪市南区西賑町二十八 全国書房

神屋敷民蔵宛(封書 鎌倉文庫原稿用紙一枚) 速達

三月一日発行の「新文学」二・三月号が五月一日につきましたか。◎僕の原稿(「回想の文学」)はいつまでにお送りしたらいのですか。

◎このつぎは、四、五月号でせうか、それはいつ頃出るのですか。

◎お茶、コブ、アマイ物〇お送り下さいませんか。

◎「北斎とドカ」つきました。

◎池田さんのものを巻頭に出されたのは感心しません。古谷君のものなど、この紙の大切な時に……と思ひました。メレジュフスキの戦記もカタすぎて、よくないと思ひます。戦記は少しぐらゐまちがつてゐても、日本語になつてゐるもの、よみたいものが一等と存じます。

五月一日

宇野 浩二

神屋敷民蔵様

◎この間お願ひしました印税内金のことお願ひいたします

三十四 昭和二十一年五月七日(消印 長野県/松本料金収納)

松本市今町四三三より

大阪市南区西阪町二十八 全国書房

神屋敷民蔵宛(封書 鎌倉文庫原稿用紙一枚) 速達

◎原稿は一昨日(五日)から書きはじめてゐます。今日(七日)中に書き上げまして、明日(八日)の午前にカキドメソクタツでお送りいたします。

◎「鳥崎藤村」と「高浜虚子」だけを一冊にして本に出したい、且その代り「印税は半分だけ原稿とヒキかへに」といふ鎌倉文庫の申し出を断つたのですから、いつかお願ひしましたやうに、「作家の歌人」(校正カナラスお見せ下さい)の印税の内金を(小包)まだつきませんがIIのもの代をおひき下さいまして)千円ぐらゐお送り下さいませんか。

◎新人のよい小説一兩日中に送ります。

五月七日

宇野 浩二

神屋敷民蔵様

三十五 昭和二十一年五月八日(消印 松本/21・5・8)

松本市今町四三三より

東京都麹町区内幸町二 大阪ビル旧館六〇四号 新生社

青山虎之助宛(封書 用箋三枚) 四拾銭 速達

やつと上京の日を十五日ときめました。

こんどは、すこし、保養(目と心の保養)

をしたとおもひまして、十五日の午前六時の汽車で立ちまして、一時半新宿着、それから新橋→新生社の順におうかがひいたしました、すぐ「新生」の文芸欄の改善策^〇について御相談をしかたがた愚見を述べたいと存じます。IIこれが十九日のヨテイです。

◎十六日は、午後鎌倉文庫にまゐりまして、原稿チエンのわびその他の用事をすまし、それから、大森の知人¹⁾の知人の家に行つて、そこで一泊するつもりです。知人の知人といふのは(一)の知人は松本人(女学校の教頭でIIこの人に食料の買ひ方その他をおそはつてゐます)で、この人が東京見物に十六日の午前六時の汽車で上京して、(二)の知人(この松本の人の友人で、医者で大へんな蔵書家で、博士ですが、滅多にない病気がセンモンですから、開業はしてゐても、ヒマのある人)です、IIつまり、十六日は、午前は、十五日のノコリの「新生」の改善の御相談をし、午後にかまクラ(実はニホンバシ)に行き、それから大森の医者²⁾のうちに

つて休養（四時半前に電車にのらないとセイゲン時間に引つかかります）

◎十七日は、午前早く大森から東京都内に出て、大塚と卯山に行き、午後一時ごろ新生社にお伺ひいたします。そこで、松本の知人と大森の医者を持ちあはし、東京劇場の「助六」ケンブツに行くヨテイです。

◎十七日も大森にとまります

◎十八日は、朝大森を出て、ひる前新生社により、ひる頃、有楽町で松本、大森の知人とおちあひ、どこかでひるめしをたべ、東京ヤケアト見物をかねて、神田神保町に行き一誠堂の一番書次にあつて、イントクの本を見せてもらひ、その中でましなものを強奪的に買ふヨテイです。

その晩の汽車（十一時三十五分の汽車）で松本に帰ります。

◎この急行旅行は、オンにキセたわけではないですが、「青春期」の「新生」に出す最後の分をなるべく早く完結させるためと、コドモ（二十五歳）がシルシだけの結婚式を松本でするためです。

◎コドモは、復員する兵隊と、南方にある日本人を内地につれてくる役をしてをりまして、それを二年ぐらゐやると云つてをります。そのコドモが、二十日から一週間とかヒマをもらつて松本に來まして、二十五六日にカタだけの結婚式をしてほしい、といふので

す。つまり、コドモは、新妻を、僕のうちに、家事テツダヒとして、ゝいて、自分は、あと一年半か二年ぐらゐ、復員船で海の上を往復するさうです。

◎但し、この結婚式なるものは、今テツダヒに來てゐるバアサンとコドモにまかせますから、僕は、式の日だけ出席して、あとは「青春期」その他に没頭するつもりですから、大して仕事たのジヤマになりません。

◎さて、俗の願ひハサカナ大キキンのため、カンヅメを若干お願ひしたいのです。これは、遠慮なく申しますと、僕には、いつかいただきましたとき、重くてハイコウしましたので、例の中川力ちもちに、松本まで持つて行つてもらひます。中川力ちもちはそのため、十八日の夜行で松本に來てくれますから、カンヅメ若干と申しましたが、ふたたび遠慮なく申しますと、多い方が結構です。それで、その上にお願ひですが、出來ましたら、十六七日ごろに、カンヅメおテハイ下さいませんでせうか。

◎それから、例によつて、東京―松本の切符（三等）コンドは、三枚御つごう下さいませんか。

三枚のウチ一枚ハ往復ハこれは十七日にほしいのです。

◎「新生」文芸欄の改善案の一つハ執筆者の顔ぶれを、もう少し広くして、それで、格をおとさず、「新生」の面目をけがさない方

法||これは主として小説、それから隨筆。

◎中間の欄(このまえ、荷風、白鳥、茶谷あるひは辰野)を改善すること。

まったく変へなくても、改善すること。右、僕も考へておきますから、社長さんは、大いに考へておいて下さい。

五月四日

宇野 浩二

青山虎之助様

三十六 昭和二十一年五月九日(消印 不明)

松本市今町四三三より

大阪市南区西販町二十八 全国書房

神屋敷民蔵宛(封書 原稿用紙一枚) 速達

前略

急用が出来ましたので、原稿おくれますが、明日の午前のソクタツで、まちがひなく、お送りいたします。

それから、いつかお願ひいたしました、

川崎長太郎氏(小田原市幸四ノ五八五)

北澤喜代治氏(松本市渚町三三三)

の両氏に原稿料がといてゐないやうですが、両氏には、僕が、それぞれ、無理にお願ひし、他の雑誌におくるのを、「新文学」にお

送りしたのですから、この手紙つきしだいお送り下さいませんか。

(カキドメソクタツで)

それから、「作家の歌人」の印税の内金も、これがつきましたら、

カキドメソクタツで、お送り下さいませんか。

◎この原稿紙をもらひました鎌倉文庫では電報為替で送つて来ます。

◎こんどの「新文学」の巻頭の池田小菊さんの小説は、どうしてあ

んなものを出したのですか。あれは、僕のやうなものでも、少し

よみかけて止めました。

五月九日

宇野 浩二

神屋敷民蔵様

「山吹」は、初の方のページのしの方が切れてしまつて、よみませんから、もう一冊お送り下さいませんか、これは鎌倉文庫の「無限抱擁」にもありました。

僕の前稿と一しよに、佐藤善一氏の「年輪」お送りいたします

佐藤氏は、勉強家だけに、だんだんうまくなつてゆきます。

三十七 昭和二十一年五月二十一日(消印 21・5・23)

松本市今町四三三より

山形県北村上郡大石田町 二藤部様方

斎藤茂吉宛（封書 用箋二枚）拾銭

その後はまつたく御無沙汰してをります。去年の七月はじめにこちらへ越してまゐりましたが、なにぶん二人ぐらしでありますし、

配給のお米をとりに行くのに往復二里もあるかなければならないやうな不自由をしてをりました。そのうち、在京中に空襲その他のために疲労をしてをりました妻が、昨年十二月ははじめから、気分もからだもすぐれませず、半病人になつてゐましたのが、今年のはじめから寝つきまして、二月の二十六日の朝はやく永眠いたしました。

かういふ中で、原稿をかきましたり、買ひ物に行きましたり、よんどころない用事で月に一度上京いたしましたり、いたしました上に、なにぶん、二人ぐらしの中で、二ヵ月以上の看病のために、疲労いたしました上に、約束のいくつかの原稿がおくれおくれいたしましたので、おもひながら、気にかかりながら、御無沙汰してをりました。

この封筒で御らんのとほり、「四月二十日」にお出しするつもりでをりましたのが、ちやうど一と月のちの今日（五月二十一日）にしたためる次第でございます。

さて、自分のことばかり申し上げましたついでに申し上げますと、こちらへ参りましてからのことを、「浮沈」といふ題で、九十枚ぐ

らる書きましたのが、今年のはじめで、それは「展望」といふ雑誌に出しましたが、先月の末から、そのつづきの妻が死にますまでのことを「思ひ草」といふ題で、書きつづけてをります。これに、セ
ンエツですが、

みちのべの尾花かもとの思ひぐさ今さらさらに何かおもはむといふ万葉集の歌からも、おもひついた題ですが、なにか、こんどの小説には、「思ひ草」といふ題がつけたかつたのでございます。

これを今月一ぱいに書き上げて、「人間」といふ雑誌に出すつもりでをりますが、もし無事に出来ましたら、その雑誌を先生のお手もとにお送りいたします。

東京の前の家は辛うじて焼けのこりましたが、あのまま住んでをりますと、無理に同居人をおかねばなりません上に、半年以上も朝に夕に空襲と警戒の警報におどろかさされましたので、このまゐれば、仕事が出来ないばかりか、からだがまゐつてしまふと思ひましたので、前に申し上げましたやうに、去年の七月はじめに、こちらに参りまして、四ヶ月ほど松本市外の町の百姓の家の二階をかりてをりましたのが、やつと去年の十月末にこちらに一軒（といつても、下が二た間、二階が一と間）の家にこしてまゐりました。

しかし、今は、もうこちらになれました上に、東京などと比べま

すと、たべ物などはわりらしくに手に入れますのと、おちついで読み書きが出来ますので、ここで辛抱して勉強するつもりでをります。

こちらには、先生のお子さんもをられるやうですし、浅間温泉の方には香取さんと石井柏亭さんがほとんど水住のつもりで住んでをられますし、すこしはなれたところ（有明山のふもとへん）に、よく歌におよみになつてをられますやうに、岡先生がお住みになつてをられます。

とりとめないことを述べましたが、数日前に、長くおわづらひになつたと聞いてをりました先生が全快せられましたことを人づてに聞きましたので、そのおよろこびをかねて、乱筆で述べたてました。どうぞお大事に。僕もどうやら丈夫で勉強してをります。

五月二十一日

宇野 浩二

斎藤茂吉先生

* (注) 封筒裏日付「四月二十日」

三十八 昭和二十一年五月二十一日（消印 不明）

松本市今町四三三より

大阪市南区西販町二ノ十八 全国書房

神屋敷民蔵宛（封書 原稿用紙一枚）速達

おいの上京のためと、子の結婚式（これは一日のうちの二時間ですみました）と、かさなる仕事に追はれてゐまして、「新文学」の原稿をおまにあはすこと出来ませんでした、この次ぎのメ切の月と日を折り返しお送り下さいませんか。

こんどの「新文学」いつ出ますか。

五月二十一日

宇野 浩二

神屋敷民蔵様

◎北沢さんの稿料おねがひいたします。

◎品々ありがたう存じます。あの代金をお引き下さいますて、

「作家の歌人」の印税の内金おりかえしソクタツでお送り

下さいませんか。

◎「作家の歌人」の初校かならずお見せ（お送り）下さい。

三十九 昭和二十一年五月二十七日（消印 不明）

松本市今町四三三より

大阪市南区西販町二十八 全国書房

神屋敷民蔵宛（封書 国民図書刊行会原稿用紙20×10 三枚）

速達

「新文学」なかなか出ないやうですが、どうになりましたか。

北沢さんの稿料おり返しお送り下さいませんか。

子（二十五歳）の結婚式などありました上に、たまつてをります原稿におはれまして、とうとう「新文学」の原稿まにあいませんでしたが、こんどは何月何日のシメキリですか。

○いつかお願ひしました、室生君の「山吹」ペイジのはしが切断してをりますので、よめませんから、もう一回お送り下さいませんか。

◎「作家の歌人」の校正いつ出るのでですか。

出ないやうでしたら、「鳥崎藤村」と「高浜虚子」の原稿お返し下さいませんか。

これは、イザワルでなく、いくら申し上げましても、お送り下さいました品々の代金をお引き下さいまして、あの印税の内金をお送り下さいませんか、と申し上げても、お送り下さらないからです。それに、いつか申し上げましたやうに、「鳥崎藤村」と「高浜虚子」の二つだけを一冊にまとめて、鎌倉文庫から出したい、と、川端君から云はれたのを断つたからです。それに「鳥崎藤村」も「高浜虚子」も、川端君の編輯してゐる雑誌（「八雲」と「人間」）に出したものだからです。

五月二十七日

神屋敷民蔵様

宇野 浩二

四十 昭和二十一年六月七日（消印 松本／料金収納／長野県）

松本市今町四三三より

大阪市南区西販町二八 全国書房

神屋敷民蔵宛（封書 鎌倉文庫原稿用紙一枚）速達

「新文学」はどうなつてゐますか。

◎今は、東京が印刷が不自由以上の時ですから、せめて、印刷所の自由のきく大阪の御社あたりはガンバつて下さいませんか。

◎僕の原稿、（故障のためおくれましたが）

いつまで（何月何日まで）お待ち下さいますか。（但し、九日の朝のソクタツカキドメで送るつもりです。

◎北沢さんの原稿料まだつかないさうですが、この手紙ごらん下さい、北沢さんの原稿料と、電報で二度もおねがいました「作家と歌人」の印税の内金をお送り下さいませんか。それから室生君の「山吹」と。

◎そのうち、何とかして、大阪に行くつもりです。

六月七日

神屋敷民蔵様

宇野 浩二

四十一 昭和二十一年六月十三日（消印 不明）

松本市今町四三三より

大阪市南区西賑町二十八 全国書房

神屋敷民蔵宛（封書 原稿用紙一枚）速達

「新文学」四五月号は見事な出来です。が、長い小説を二つお出しになつたのは考へものでした。北沢氏を出せば、池田氏のを次号にするとか、池田氏を出せば、北沢氏を次号にして、短い小説を、川崎君ぐらゐのを二つお出しになつたらと存じます。

古谷君のものはツマラないと存じます。

やはり川崎君のものは抜けてゐると思ひます。

それから、長篇のレンサイは、よほどよいものでないと、お止めになることを希望します。他のてんは、一所懸命はわかりますが、くどくて、退屈です。

「回想の文学」は、面目をあらためるために、一回休ませてもらひます。この次ぎは何月何日メ切りですか。必ずかきますから、お返しお知らせ下さい。

北沢さんに、あの雑誌五部送つて上げて下さいませんか。

それから、川崎、北沢両氏に原稿料すぐ送つて上げて下さい。

六月十三日

宇野 浩二

神屋敷民蔵様

◎土田杏村全集は感心しませんが、

◎プラトン全集は大いに感心いたしました。

これは代金はらふことにして、お送り下さいませんか。

四十二 昭和二十一年六月二十六日（消印 不明）

松本市今町四三三より

大阪市南区西賑町二十八 全国書房

神屋敷民蔵宛（封書 国民図書刊行会原稿用紙20×10 二枚）

速達

前略〳十九、二十、二十一、二十二日と上京してをりましたので、「作家と歌人」の校正おかへしおくれましたが、一両日中にお送りいたします。

◎「新文学」（四五月号）のあとはどうなりましたが、心配してをります。僕は、「回想の文学」をのぼして、「晩年の尊徳」といふ小説を「新文学」のためにかくつもりでをります。シメキリの月と日をお知らせ下さいませんか。

◎茶谷君から「文楽聞書」をもらひましたが、あのやうなものをお出しになるなら、広津の「芸術の味」をお出しになつた方がと思ひます。

◎「新文学」はこの次ぎは六・七月号ですか。そのうちに、合併号でないのをお出しになりませんか。

六月二十六日

宇野 浩二

神屋敷民蔵様

「作家と歌人」の印税の内、もう千円、

(内金として) 電報為替でお送り下さいませんか。

四十三 昭和二十一年七月五日 (消印 不明)

松本市今町四三三より

大阪市南区西販町二十八 全国書房

神屋敷民蔵宛 (封書 国民図書刊行会原稿用紙20×10 三枚)

速達

「作家と歌人」の印税内金(一千元) つきました。お礼申し上げます。

さて、自分の原稿をおまにあはせしないのに、恐縮ですが、「新文学」のこんどの号の、小説の作者と顔ぶれと、評論その他の筆者の顔ぶれをおりかへし、お知らせ下さいませんか。

「新文学」は東京のあらゆる文芸雑誌より以前に出した雑誌です。

その上、東京に比べると御地の方が印刷の能力もあり、表紙の紙などもよいのですから、(ただ題の字が小さすぎるやうです。あれは誰もさういつてゐます。) 内容をなるべくよいものにした、(して

いただきたい) と希望してをります。

◎織田君にナニカ中間物を書いてもらつてはいかがですか。

◎上林君に小説おたのみになつたらどうですか、との村、渋川驍君にもおたのみになりませんか。

◎一度、御地に行つて、いろいろ申し上げたいのですが、松本一名古屋、名古屋―関西線といふのがタイギな気がします上に、今は、大阪のもつともアツイ時かと存じます。その上、ヤドと食物の心配がありますので、二の足をふんでをります。

◎それで、今お願ひしましたこと、お知らせ下さいませんか。

七月五日

宇野 浩二

神屋敷民蔵様

四十四 昭和二十一年七月二十七日 (消印 不明)

松本市今町 四三三より

大阪市南区西販町二十八 全国書房

神屋敷民蔵宛 (官製ハガキ) 五銭 速達

「新文学」の原稿失礼してをります。

実は二た月がかりの小説がまだ出来あがらないのです。そのため「新文学」の方御メイワクかけてをります。

しかし、メ切日をお知らせ下さいませんか。

それから、「新文学」のその後の様子をおしらせ下さい。

「作家と歌人」の印税もおねがひいたします

四十五 昭和二十一年七月三十日（消印 不明）

松本市今町四三三より

大阪市南区西販町二十八 全国書房

神屋敷民蔵宛（封書 原稿用紙二枚） 速達

前略

「作家と歌人」の校正（校了）と検印証（一萬）をカキドメソクタツでお送りいたしました。御落手のことと存じます。

あれを校正しながら、「島崎藤村」「高浜虚子」「歌人の散文」は、殊に、自分ながら面白いものと思ひました。これで、全国書房で、僕の本として、はじめて出す本としては、僕としても恥づかしくないとおもひました。

◎それで、ふと装幀のことが気になりましたが、いつも僕の装幀をたのんでゐる鍋井君は写生と避暑をかねて旅行に出たらしいですから、彼にたのむのはまにあはないでせうか。

「新文学」にあれの広告が出てから、方々から手紙でマユまれます。

御都合のつくかぎりなるべく早くお出し下さいませんか。

◎それから、あの印税なるべく早くお願ひいたします。

◎うちに少し重い病人がゐまして、入院させねばなりませんので、なるべくマトメテお送り下さいませんか。できれば電報為替か、小切手でしたら、安田銀行。

◎つきに、「新文学」のその後の様子をおりかへし、お知らせ下さいませんか。「回想の文学」をすませましたら、「新文学」に少し長い小説（あるひはレンサイの小説）を寄稿しようかとおもひます。いろいろおせわになりましたお礼として。

◎いづれにしても、「新文学」今年ちゆうに、幾冊出ますか、今のところ、どういふカホブレ（小説の作家）がきまつてゐますか、それもおりかへしお知らせ下さいませんか。

◎それから、一心寺の事ム所までどなたかおいで下さいまして、方ホウ尚ショウさんのおともだちの小昔秀直コスケヒロナオさんの御住所をお聞き下さいまして、お知らせ下さいませんか。

この人の住所わかりましたら、二つの遺骨を一心寺におさめかたがた大阪に行かうとおもひます。

七月三十日

宇野 浩二

神屋敷民蔵様

四十六 昭和二十一年八月二十七日（消印 21・8・27）

松本市今町四三三より

大阪市南区西販町二十八 全国書房

神屋敷民蔵宛（封書 鎌倉文庫原稿用紙一枚）速達

十四日から昨日（二十六日）まで東京に行つてみました。

僕としては、創作をゆるしてもらひますことは実にありがたいです。

「回想の文学」のシメキリの月日をお知らせ下さい。

ただ、「新文学」の原稿料はあまりに安すぎます。いまどき、二

十五円とか三十円といふ稿料は、僕には、どこにもありません。

では、「作家と歌人」の印税あと二千円に承知いたしました。

が、まだつきません。（三日とかいふたのが八月十三日で、今

日は二十七日です）電報カワセでお送り下さい。

及川氏の小説かならずお出し下さい。

あんな小説（新人）はちよつとありません。

八月二十七日

宇野 浩二

神屋敷民蔵様

四十七 電報 昭和二十一年八月二十八日（消印 大阪

東／21・8・28）

六二六

一五 マツモト 一四八 コニ・五六

ニシニギ ワイチョ二八

センコクシヨボウ

カミヤシキ タミゾウ殿

インゾ^マ イノコリマチカネ^{ウノ}

コ九・三六八

四十八 昭和二十一年九月三日（消印 不明）

松本市今町四三三より

大阪市南区西販町二八 全国書房

神屋敷民蔵宛（封書 国民図書刊行会原稿用紙20×10 一枚）

一円拾銭 速達

二度も三度も電報でお願ひしましたが、お金とどきません。

いつかのお手紙にありましたとほりのケンサン（新門、フウサ）

で結構ですから、新円の分だけ電報カワセでお送り下さい。

「新文学」その後どうなりましたか。

「作家と歌人」いつ頃出ますか。

九月二日

宇野 浩二

神屋敷民蔵様

* (注) 封筒裏日付「九月三日」

四十九 昭和二十一年九月九日(消印 不明)

松本市今町四三三より

大阪市南区西販町二十八 全国書房

神屋敷民蔵宛(封書 「国民図書刊行会」原稿用紙20×10 二

枚) 三拾銭

先月十四日から二十六日まである雑誌の小説のために、上京、タイザイ、カンツメになつて、書きましたが、それでも完結せず。十二日からまた上京いたします。

それに、「作家と歌人」の印税内金三千円うけとりのお知らせもおくれました。

◎「作家と歌人」いつ頃出来ますか。

◎右のやうな事情のため、「回想の文学」まで手がとどきませんが、ナニシロ、去年のからの約束の原稿のために、毎月十人くらゐ東京からサイソクに来ますので、その方がしぜん先きになります。

◎及川君の小説はやくお出し下さいませんか。どうも「新文学」はウチワの人とか、あまり顔ぶれが変らないのが難点でせう。

また、「回想の文学」の稿料も、今としては、あまり安すぎると存じます。

九月十日

神屋敷民蔵様

上京中は

本郷区台町九 筑摩書房気附

(注) 封筒裏日付「九月九日」

五十 昭和二十一年十月五日(消印 大阪東/21・10・5/大阪府)

松本市今町四三三より

大阪市南区西販町二十八 全国書房

神屋敷民蔵宛(封書 原稿用紙二枚) 一円六拾銭 速達

先日十二日から二十七日まで、小説をかくために、上京してをりました。

「作家と歌人」ルスちゆうについてゐました。あの装幀については何とも申しません。唯、すこしおソマツすぎたと存じます。

それはそれとして、印税の残余金月末(九月末)までにお送り下さる、とありましたが、まだつきません。印税のなかで、封鎖になるのは、全国書房だけです。仕方がありませんから、お送り下さい。

それから、御面倒ですが、同封の名刺の人々には、その名刺を扉

に入れて、それぞれお送り下さいませんか。

齋藤 山形県北村山郡大石田町 二藤部兵右衛門方

加納 東京都渋谷区千駄ヶ谷四丁目 小山書店内

木村 東京都日本橋区通一 白木屋三階 鎌倉文庫

谷 東京都下武蔵野町吉祥寺緑ヶ丘五二〇

谷崎 東京都世田谷区世田ヶ谷 四ノ七二〇

辰野 東京都下武蔵野町吉祥寺六〇〇 荻野大蔵方

他の人々はおわかりとおもひます。

それから、「作家と歌人」十部（代金とり）お送り下さいませんか。

及川甚喜氏は

杉並区阿佐ヶ谷四ノ四〇二 中村信治郎方です。及川君に小説の出てゐる雑誌三冊おくつてあげて下さい。

「回想の文学」は新年号よりつづけたいと存じます。新年号のメ
切月日お知らせ下さい。

すこし寒くなりましたし、大阪、京都に行き、実に久しぶりで、全国書房をおたずねしたいと思います。

プラトン全集まだ出ませんか。

北沢喜代治さんは「今月は学校がほとんど休みになりますから、書きたいことが、少しまりましたから」と云つてをられました。

十年にちかい戦争のために、四十代以下の人に、文学の勉強が今年なかつたのでせう。新作家（真に新らしい作家）がないのは心細いことです。

十月三日 宇野 浩二

神屋敷民蔵様

◎「矢島村堂」

◎「日本の文学者」

◎「天平」

五十一 昭和二十一年十月十日（消印 不明）

松本市今町四三三より

大阪市南区西賑町二十八 全国書房

神屋敷民蔵宛（封書 原稿用紙一枚）

前略

「作家と歌人」の印税の残金をお送り下さいませんし、何のおたよりもありませんが……

同封の名刺（この間お願ひしました、中に、入れるのを忘れまして、久保田君のもいれました）の人に、「作家と歌人」お送り下さいませんか。

渋川——杉並区成余一ノ九五

上村——杉並区天沼二ノ三一九

「新文学」の新年号から、「回想の文学」はじめます。そのメロ月日をお知らせ下さいませんか。

いつか、かへしていただきました、北沢氏の佳作「人さまざま」は、実は、織田君から、「世界文学」にたのまれましたので、僕から、送つたのですが、「世界文学」がああいふ雑誌になりましたので、北沢さんにお気の毒にもひまして、織田さんから返して貰ふことにいたしました。織田さんから原稿つきましたら、お送りいたします。「新文学」新年号のために、

十月十日

宇野 浩二

神屋敷民蔵様

五十二 昭和二十一年十月十六日（消印 本郷ノ21・10・18）

東京都本郷区森川町 帝大正門前 双葉旅館内より

大阪市南区西販町二十八 全国書房

神屋敷民蔵宛（封書 新生社編輯部原稿用紙20×10 二枚）

十五日から、二十五日まで上京いたしますので、「作家と歌人」の印税残金、左にお送り下さいませんか。

東京都本郷区森川町

帝国大学正門前

双葉旅館内

それから、右の旅館までに、「作家と歌人」十部お送り下さいませんか。

十月十六日

宇野 浩二

神屋敷民蔵様

本の代金は印税よりお引き下さい。

五十三 昭和二十一年十月十八日（消印 不明）

東京都本郷区森川町 帝大正門前 双葉旅館より

大阪市南区西販町二八 全国書房

神屋敷民蔵宛（封書）鎌倉文庫原稿用紙一枚 三拾銭 速達

一昨日、こちらに来ました。こちらで、「作家と歌人」のことを聞きますと、どこにも誰のところにも、「作家と歌人」がついていません。

これは困ります。どうぞ、いつか手紙に入りました名刺の人々に、「作家と歌人」をみなお送り下さいませんか。

それから、「作家と歌人」の印税は、あとについていかといふお話し（お手紙）でしたが、あれは、二十六、七日まででしたら、こちらにお送り下さい。

北沢氏の「人さまざま」は、又また改作してお送りするさうです

から、よろしくお願ひいたします。

十月十八日

宇野 浩二

神屋敷民蔵様

* (注) 封筒裏日付「十月十日」

五十四 昭和二十一年十月二十四日 (消印 本郷ノ21・10・24)

東京都本郷区森川町 帝国大学正門前 双葉旅館内より

大阪市南区西販町二十八 全国書房

神屋敷民蔵宛 (封書 原稿用紙二枚) 速達

前略

少しハラをたててをります。

あまりお返事を下さらないからです。

今月一ぱい (来月二三日ごろまで) 表記にをりますから、「作家と歌人」の印税も、表記に、お返事も、表記にソクタクツで下さいませんか。

「新文学」の新年号の切は何月何日ですか。これも (もしまにあへば) おまにあはせしたいと存じます。

十月二十四日

宇野 浩二

神屋敷民蔵様

志賀さんの本その他でたましたら、こちらにお送り

下さいませんか。

五十五 昭和二十一年十一月四日 (消印 本郷森ノ不明)

大阪東ノ21・11・5 / 大阪府)

東京都本郷区森川町 帝大正門前 双葉旅館内より

大阪市南区西販町二八 全国書房

神屋敷民蔵宛 (官製はがき) 五銭 速達

七日ぐらゐまでここにゐます。

八日か九日松本にかへり、十五日頃ここに来ます。

「作家と歌人」お送り下さいましたか。

印税のこりまだつきませんが。

十一月四日 東京都本郷区森川町

帝大正門前

双葉旅館内

宇野 浩二

五十六 昭和二十一年 十一月八日 (消印 不明)

東京都本郷区森川町 帝大正門前 双葉旅館内より

大阪市南区西販町二八 全国書房

神屋敷民蔵宛 (封書 新生社編輯部原稿用紙20ノ10 二枚)

金五千円いただきました。

「作家と歌人」の印税のケイサン書お送り下さいませんか。

「作家と歌人」おねがひしましたところに、みな、お送り下さいましたか。

広津の本と、そのほか、お願ひしました本お送り下さいませんか。
十二三日から十七八日ごろまで、松本にかへります。

「新文学」どうなりましたか。

いつかの書留は、「双葉旅館」がぬけてをりますので、京都へ返送されたのです。

◎京都と、大阪と、全国書房はどちらが本当ですか。

十一月八日

宇野 浩一

神屋敷民蔵様

五十七 昭和二十一年十一月二十日(消印 不明)

東京都本郷区森川町 帝大正門前 双葉旅館内より

大阪市南区西販町二十八 全国書房

神屋敷民蔵宛(官製はがき) 五銭 速達

◎前略―二十二日に一と月半ぶりで松本にかへり、それから十二月五六日ごろまで松本にをります。

「作家と歌人」―辰野、青野、広津、上林、渋川、谷崎精二、木村

徳三、加納正吉、斎藤茂吉、鍋井克之、織田作之助、川端康成、その他に、たしかに、お送り下さいましたか。お返事は松本に下さい。

十一月二十日

東京都本郷区森川町

「新文学」どうなってますか。

帝大正門前

双葉旅館内

宇野 浩一

五十八 昭和二十一年十一月三十日(消印 不明)

松本市今町四三三より

京都市中京区御池通富小路西入 東八阪町五八五 全国書房

神屋敷民蔵宛(封書 新生社編輯部原稿用紙20×10 二枚)

速達

昨日(二十九日)四十五日ゐてた東京から帰りました。

おほせどほり、小切手は同封いたしますとほり、まちがえてをりました。

おとりかへ下さいませんか

同封の居所よろしくお願ひいたします

木村伝三、日本橋区通一 白木屋三階 鎌倉文庫

小畑正吉 渋谷区千駄ヶ谷四ノ八一六 小山書店

斎藤茂吉 山形県北村山郡大石田町二藤部兵右エ門方

辰野隆 武蔵野町吉祥寺六〇〇 荻野大蔵方

小山二郎 渋谷区千駄ヶ谷四ノ八一六

「新文学」このつぎのメ切りは何月何日ですか。本いろいろありがたう存じます。

来年はかならず、おうかがひいたします。

十一月三十日 宇野 浩二

神屋敷民蔵様

五十九 昭和二十二年一月十日(消印 不明)

松本市今町四三三より

京都市中京区御池通富小路西入 株式会社全国書房 新文学編

編集部 電話本局五五七四番

神屋敷民蔵宛(官製はがき) 五銭

お申しこしの泡鳴、秋江、潤一郎、その他といふやうなものは、骨がおれますし、二十枚くらゐに書けるものではありませんから、辞退いたします。やはり、僕は「回想の文学」の形の変つたものにして下さいませんか。十三日上京します。帝大正門前双葉旅館北沢氏の「人さまさま」は、北沢氏のものとしても他とくらべても、よいものと存じますが、いつ出るのであらうか。

新年号のカホブレは、少し、ワセダのオモムキが有りすぎるやう

におもはれます。

ことは京都にゆくつもりです。

六十 昭和二十二年一月二十二日(消印 不明)

東京都本郷区森川町八六 帝国大学正門前 双葉旅館内より

京都市中京区御池通富小路西入 全国書房

神屋敷民蔵宛(封書 原稿用紙一枚) 一円三拾銭 速達

前略

ずっと前にお願ひいたしました「作家と歌人」を、お送り下さりなかつたところが、ずるぶんありますので(東京です) 十部お送り下さいませんか。

潤一郎の「鮫人」について、書きたいとおもいますので、お送り下さいませんか。

それから、西村君の「日本の初期の洋画」のこつてゐるのがありましたら、お送り下さいませんか。これは代金をおとり下さい。

重光さんに、おわび云つて下さいませんかどうしても、織田君のこと、おきにめしません、と。織田君の本が、こちらで、買へなかつたからでもあります。

一月二十二日 宇野 浩二

神屋敷民蔵様

六十一 昭和二十二年二月十三日（消印 22・2・13）

東京都東本郷区森川町八六 双葉旅館内より

京都市中区御池通富小路西 全国書房

神屋敷民蔵宛（封書 原稿用紙二枚）一円三拾錢 速達

前略。「新文学」の重光さんから十日ごろ上京されるといふお手紙（ソクタツ）がありました。（実は僕は今月のはじめからクスの中毒でずつと寝てゐて、昨日一十二日一やつと床をはなれたのですが）十日にはお見えになりませんでした。

「新文学」については、編輯長になられた重光さんに、手紙でも何でも、いふべきですが、やはり、僕には、「新文学」とあなたとは、創刊号の頃からの、御苦労を知つてをりますだけに、あなたに、手紙をかく気になります。

さて、「新文学」には、「回想の文学」は、もう、読む人はもとより、書く僕も、気がぬけましたから、こんどは、「回想の美術」（これは、数年一五六年一前に「みづゑ」時代からつづけて、美術雑誌が統制になつてから、「美術」といふ名になるまで、六回ほどペンサイしたのですが、これは、よんで手紙をよこす人なども多く、僕も、書きつづけたい、とおもつてゐたのですが、そのち、他の仕事がいそがしくなつて中止したものです）を、「新文学」に、何

月号からか、レンサイしたいのです。この「回想の美術」は、一昨年の秋頃から、中央公論社で出してほしいといつて来てをりますが、今まで書いた分だけでは、僕は気にいらぬのです。それで、ながい間、出すん、おこたつてゐました「新文学」に出したいと存じます。

それで、前に御ねがひ申し上げたかと存じますが、

西村貞の「日本初期洋画の研究」

小林太市郎の「大和絵史伝」

小林太市郎の「北斎とドカ」

以上を、参考書の一つとしたいと思いますので、この三冊は代金をおはらいたしますから、お送り下さいませんか。

二月十三日

宇野 浩一

神屋敷民蔵様

ずつと表記にタイザイするつもりです。

「おせじはキラヒですが、ここにやつて来ます、どの出版社の人でも、素人でも、「全国書房はずるぶんいい本を出しますね、ずるぶんよい紙をつかつてゐますね。」と云ひます。但し、僕の「作家と歌人」はソウテイも紙も評判よろしくありません。

六十二 昭和二十二年十一月七日（消印 不明）

松本市今町四三三より

大阪府南区西販町二十八 全国書房

神屋敷民藏宛（私製ハガキ）速達

せんだつてお送りいたしました北沢喜代治氏の原稿（小説）おり返しお送り下さいませんか。（カキドメソクタツで）その代りのものをお送りいたしますから。

十一月七日

松本市今町四三三

宇野 浩二

六十三 昭和二十三年六月八日（消印 23・6・8）

東京都文京区森川町七十七より

大阪府下吹田市千里山一四三 カホリ書房

神屋敷民藏宛（官製ハガキ）五拾銭

ごぶさたしてをります。表記にこしました。

その後の御活動かけながら喜んでをります。

秋の十一月頃京阪にまゐります。その時おおうかがひいたします。

それから、「新文学」にをられましたところ、おあづけしました北沢

喜代治氏の「人さまさま」がゆくへ不明のため困つてをります。お

さがし下さいませんか。それから、大阪においてになりましたとき、

おそれいますが、一心寺におより下さいまして小菅秀直氏のところをおき下さいまして、おしらせ下さいませんか。御社刊の本ございましたら。